



しりょうかんだより



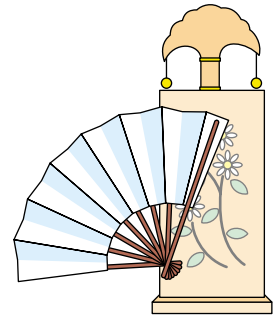
No.9



きょうどしりょうかん
郷土資料館では、3月20日(土)～4月4日(日)に春休みこども週間「きょうどしりょうかんであそぼう!」を開催します。

こままわし・お手玉・おはじき遊び・輪なげ・的あてゲーム・すごろく・カルタなどみなさんのおじいさん、おばあさんが子どものころ遊んだ遊びをしたり、自分でぶんぶんごまをつくったりできます。

また今回は、^{とうせんきょう}投扇興^{おうぎ}といって扇を的にむかって投げて、点数を競う古くからある遊びも体験することができます。



春やすみには、ぜひ、お友だちをさそって、きょうどしりょうかんに遊びにきてください。



とよたのれきし(中世4)

むらまちだいい(室町時代3(戦国時代): 1467年～1573年)



織田信長画像
(長興寺蔵・国指定)

えいろく 永禄4年(1561) ^{おだのぶなが}織田信長は、尾張から三河へ進出し現在の豊田市内の梅坪・伊保・八草を攻め加治屋村(金谷村)を焼き払ったといわれています(『信長公記』)
^{うめつぼ いぼ やくさ かじや}
織田信長は、この後も永禄9年(1566)に寺部城を攻め、翌10年には長興寺を焼き払い、周辺を勢力下におさめました。この時期、現在の市域の北西部は今川氏、東部は松平氏の勢力があり、お互いに対立していたところに、さらに織田氏が加わって、勢力争いがはげしくなっていました。

市内の長興寺には織田信長画像が大切に保管されています。これは織田信長の家臣で衣城(金谷城)の城番であった余語正勝が、信長が死んで1年後、^{ほうよう}法要のためにお寺に寄進したものです。また篠原町にある永澤寺には今川義元から領地を^{よしもと}保証された^{ほしょう}安堵状などがのこされています。



今川義元文書(市指定文化財)

おがしのあそび —とうせんきょう—

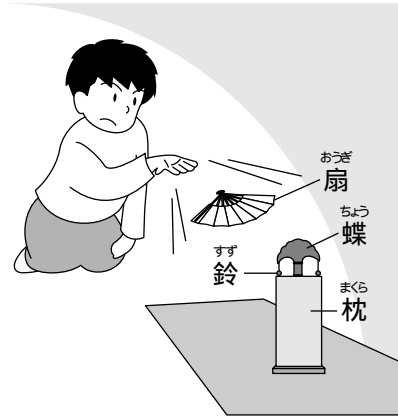
とうせんきょうってなあに？

「^{とうせんきょう}投扇興」は、たたみの上にすわって、^{おうぎ}扇を広げるとびして、^{えどじだい}江戸時代におとし、^{えどじだい}的と扇の落ちた形によって点数をきそう遊びです。^{かんさいちほう}関西地方の^{しょみん}庶民があそんだことがはじまりのようで、中国の「^{とうこ}投壺」というあそびがヒントになってかんがえられたそうです。

とうせんきょうの^{どうぐ}道具は、扇と^{ちよう}蝶と^{まくら}枕をのせる台からなっています。^{ちよう}蝶は、たいていはきれいな布で作ったもので、^{すず}鈴がはしについていて、扇があたると鈴がなるしくみになっています。^{ちよう}蝶をのせる台は^{まくら}枕といいいます。

あそびかたは、二人の対戦方式です。さいころをふって投げる順番を決め、扇を広げて、蝶に向かって扇をとびします。見事に扇が^{ちよう}蝶にあたると、扇と蝶と枕の位置関係によって点数をつけます。たとえば、枕に扇がのったものは「みをつくし」という名前がついていて、一番点数が高い形です（流派によって点数はちがいます）。この形は平安時代の物語『源氏物語』から名前がつけられています。点数の合計が多い方が勝ちになります。

とうせんきょうにはさまざまな流派があり、流派によっては毎年とうせんきょうの大会がひらかれているところもあります。



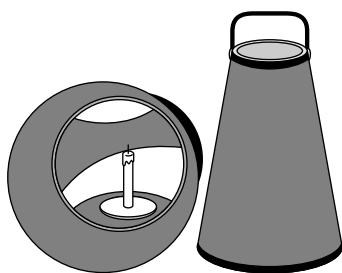
民 具

M I N G U

がんどう(ちょうちん)

現在のかいちゅうでんとうのようなもので、持ち手があり、つりがね形になっていて、中のろうそく立てが自由にうごくしかけになっていて、ろうそくがいつも上を向くようにくふうされています。むかしは強盗のことを「がんどう」ともいったようで、強盗が使ったので「がんどう」と名前がついたとのいわれもあります。

郷土資料館の民俗資料館に展示してあるので、みなさんぜひ見にきてください。



しりょうかんだより No.9

平成16年3月3日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。